

琉球大学学術リポジトリ

洗濯に対する主婦の意識と行動 — 那覇市の場合 —

メタデータ	言語: 出版者: 琉球大学教育学部 公開日: 2009-12-07 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 藤原, 綾子 メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/20.500.12000/13689

洗濯に対する主婦の意識と行動

— 那覇市の場合 —

藤原綾子

Views and Behaviors of Housewives in Regard to Washing Clothes
— Survey in Naha City —

Ayako FUJIWARA*
(Received May 31 . 1988)

Summary

This study was carried out to understand views and behaviors of housewives on washing clothes and to find out significance and problems of washing in housekeeping.

As a result, the following points were made clear.

1. Housewives in Naha city took from 1 to 1.5 hours a day for washing clothes.
2. Housewives who had full-time jobs outside tended to do their laundry in the evening.
3. They washed clothes with synthetic detergent, but they neither used the standard amount of detergent nor measured detergent by spoons or cups.
4. About 60 percent of the housewives used the automatic washing machine while they were doing their housekeeping jobs.
They did not use the dryer so much.
5. Housewives at the older generations had wishes to wash clothes at home in future, while the younger generations wanted to have their clothes washed at laundry outside.

1 はじめに

近年、生活の合理化・機械化などにより家事労働は大きく軽減されているが、「洗濯」は現在でも主婦にとって炊事と共に、時間・労力の両面から重要なウェイトを占める家事の一つである。

洗濯の歴史は戦後の電気洗濯機の改良、普及で著しく変化した。これには戦後の公営住宅の間どりも大きく影響したと言われている。それまで

は高根の花だった電気洗濯機は昭和30年代からは高度経済成長の波に乗って急速に普及し、現在では普及率98%を越え、一世帯ほぼ一台という所有状況になっている。

昭和36年になると、全自動洗濯機も販売され、洗いから、すすぎ、脱水とボタン一つでできるようになった。更に昭和54年から販売されたマイコン内蔵全自動洗濯機では、種々のプログラムが組み込まれ、コースを選択すれば機械が自動的に水流タイプや洗濯時間、すすぎ時間を割り出し作業をする、というたいへん便利なものになっている。こうした状況下において現代の主婦の洗濯に対

* Home Eco., Coll. of Educ., Univ. of the Ryukyus.

する意識や行動は以前にくらべ変化してきているように思われる。

主婦を対象とした洗濯に関する調査として、石らの報告¹⁾があるが、これは10年以上も前の調査である。また、花崎らの報告²⁾は家庭洗濯の実態が主で、意識についてはほとんどふれていない。

また、筆者はここ数年間「被服整理学」の講義の中で、学生を対象に洗濯に対する行動や意識について調べているが、「新人類」とよばれる世代の考え方や行動に驚きと途惑いを感じており、こういう世代を相手に今後の被服整理の講義の内容はどうあるべきか、検討中である。

以上のような現状をふまえ、現代の家庭における主婦の洗濯行動を把握し、今後増えることが予想される全自動洗濯機、電気乾燥機などの普及状況を知り、これらに対する主婦の意識、将来の洗濯への希望など、今後の家庭科教育における「被服整理」の在り方への示唆を得ることを本研究の目的とした。

2 研究方法

(1) 研究（調査）の概要

調査の時期は昭和61年8月から9月にかけてである。調査対象是那覇市に住む20代から70代の主婦で、市内の商業・住宅地域4ヶ所から50名ずつ、計200名を年令に偏りのないようにして選んだ。

調査方法は調査員による質問紙を用いた面接法で行なった。有効回収数165で、回収率82.5%を得た。

(2) 調査項目

基本属性として、年令、職業（就労形態）、家族形態、家族数を調べた。

洗濯行動の項目として、洗濯の頻度、一日の洗濯時間、洗濯の時間帯、手洗いの実施状況、毛糸編物類の洗濯、使用洗剤、洗剤の計量、洗剤の使用量、主にふだん洗濯をしている人、全自動洗濯機使用による時間の活用、二槽式洗濯機使用による時間の活用、乾燥機の所有・使い方・問題点などである。

洗濯に対する意識の項目は、合成洗剤、石け

んを使うそれぞれの理由、洗剤による環境汚染、自動式洗濯機を使う理由、洗濯機の買い替え、将来の洗濯などである。

(3) 分析方法

調査データを項目毎に単純集計し、全体としての傾向を把握した。

また、必要に応じてクロス集計を行ない、二項目間の関係についても把握した。

3 結果および考察

(1) 調査対象の概況

調査対象は20才から76才までの主婦で、年令別人数の内訳は表1に示すとおりである。

表1 対象者の年令別内訳

年 代	人 数 (人)	百分率 (%)
20	21	12.7
30	47	28.5
40	36	21.8
50	28	17.0
60	18	10.9
70	15	9.1
合 計	165	100.0

これによると、30代が最も多く28.5%、次いで40代の21.8%、以下50代17.0%、20代12.7%、60代10.9%、70代9.1%と続く。

対象者の就労形態については表2に示した。

表2 対象者の就労形態

職 業	人 数 (人)	百分率 (%)
常 勤	66	40.0
パート	28	17.0
自 営	18	10.9
家 事	53	32.1
合 計	165	100.0

常勤の者が最も多く40.0%，ついで家事の32.1%，パート17.0%，自営10.9%，の順に少なくなる。夫のいない年金生活の主婦については、家事を自ら行なっているので、「専業」の項に入れた。

今回の調査においては、常勤、パート、自営をあわせた有職主婦は67.9%で専業主婦の32.1%を上回っている。

対象者の家族形態については表3に示したが、二世世代家族が最も多く69.1%を占め、三世代の16.4%，単一世代11.5%，四世代3.0%と続いている。これらのことから、三世代以上の家族は19.4%と割合少ないことがわかる。

表3 対象者の家族形態

家族形態	人数	百分率
単一世代	19	11.5
二世代	114	69.1
三世代	27	16.4
四世代	5	3.0

家族数については表4に示した。これによると、最も多いのは4人家族の26.7%で、ついで5人の23.6%，3人の23.0%と分かれているが、全体として3～5人が73.3%で大半を占めていることがわかる。

表4 対象者の家族数

家族数(人)	人数(人)	割合(%)
1	5	3.1
2	20	12.1
3	38	23.0
4	44	26.7
5	39	23.6
6	11	6.7
7以上	8	4.8
合計	165	100.0

先に厚生省人口問題研究所が発表した「第九次出産力調査(昭和62年)」³⁾の中で、夫婦一組から産まれる子供の数は全国平均で2.1人であること、今回の調査で示された二世世代家族が約7割であることから考えると、那覇市において、夫婦に子供2人という家族形態が現代の家族の平均像だと見ることができる。

(2) 単純集計結果

洗濯行動や意識についての単純集計の結果は図1～3に示している。

特に洗濯行動の実情については図1に示した。洗濯の頻度では、83.6%の者が「ほぼ毎日」と答えており、「一日おき」は16.4%と少ない割合をしめしたが、これは高令者の場合に多かった。

洗濯の時間帯では、「午前中」が53.9%で半数以上を占め、ついで「夜(6時以降)」の35.2%、「午後」は5.5%、「決っていない」6.1%の二者は低い割合を占めた。

洗濯は昔から朝早くして、干しておけばその日のうちに太陽熱でかわき、あとの時間は他のことに使えることがずっと続いてきた生活の知恵であるように思われる。

主に洗濯をする人については、「主婦(本人)」が86.6%と最も多く、「夫」の5.5%、「娘または嫁」5.5%、「母」の1.8%等は低い割合を占めていた。これからもわかるように「洗濯」は時代がかわっても相変わらず主婦の仕事のようである。

一日の洗濯時間については、「約1時間」が49.1%で、ついで「1.5時間」は33.3%、以下「30～40分」10.3%、「2時間」7.3%と低くなる。

NHKが5年毎に行なっている「日本人の生活時間」(1985年)⁴⁾によると、主婦は毎日のように洗濯をしている。洗濯の時間帯も午前中が大半であること、洗濯にかかる時間は昭和50年、55年にくらべ60年には増加していて1時間22分から1時間30分の時間をかけていることなどが明らかになっている。

この調査結果と今回の筆者の結果を比較すると、那覇市の主婦はその約3割の者が全国平均

とはほぼ同時間洗濯をしているのであるが、一方、半数の主婦は全国より短い時間しか洗濯にかけていないことも明らかになった。

この原因については後で述べる洗濯の自動化と関係があるように思われる。

二時間も時間をかけているのは、家族数が多かったり、乳児がいたりして、洗濯物が多い家庭であった。

さて、洗濯には機械洗いと手洗いがあるが、「手洗いをしていますか」という問いに対し、70.9%の主婦が「物によってはしている」と答え、「ほとんどしていない」と答えたのは29.1%であった。「手洗いをしている」と答えた者の中で「頻繁にしている」と答えた者は54.5%で、「時々している」は16.4%と低い値を示した。

「手洗い」の方法については、「手もみ洗い・押し洗い」と答えた者が85.6%と高率で、「ブラシ洗いも併用」は14.4%と低い。

ブラシ洗いは丈夫な衣類について有効であることがわかっているので、何もかも「もみ洗い」では手によくないので、今後授業の中でとり上げたいと考える。

毛糸編物類の洗濯では、「ほとんど家で洗う」者は15.2%で、「クリーニング業者と家で」は40.6%、「ほとんど業者に任せる」は35.2%であった。上質のものや家で扱えない物は業者に、自分で洗える物は自分で洗うというのが常識であるが、中学校の技術・家庭でも習っている編物類の洗濯ができず、ほとんど業者に任せる者が3割強もいるのは問題である。

洗濯の頻度	ほぼ毎日 83.6 (%)			一日おき 16.4
一日の洗濯に要する時間	30~40分 10.3	一時間程度 49.1	1.5時間 33.3	2時間 7.3
洗濯の時間帯	午前中 53.9	午後 5.5	夜(7時以降) 35.2	不定 6.1
主に洗濯をする人	主婦(又は婦人) 86.6			夫 5.5
			娘・嫁 5.5	母 1.8
				その他 0.6
洗濯に使用する水	水道水 97.6			天 水 0.6
				お風呂の湯 1.8
洗濯物の手洗い	手洗いもしている 70.9		していない 29.1	
	ひんばんにしている 54.5	時々している 16.4		
毛糸編物類の洗濯	だいたいで 15.2	一部は業者、一部は家で 40.6	ほとんど業者 35.7	その他 8.5

図1 主婦の洗濯行動と意識(1)

商品科学研究所が最近、東京の都心部に住む主婦を対象に行なった調査⁵⁾でも、対象となったほとんどの人が「手洗い」をしている、ウール素材のセーターは対象となった146名の8割の者が家で手洗いしていることがわかっている。手洗いの内容としては、部分洗い、汚れのひどいもの、ブラウスやスリッパなどのおしゃれ着

等をあげている。これらのことから、今回の調査における「業者まかせ」は問題が深いように思われる。この原因については後のクロス集計のところでほりさげて考察したいと思う。

洗剤関係の項目についての結果は図2に示した。

洗剤の使用量では、「わからない」と答えた

洗剤の使用量	標準量と同量 11.5	基準量より多め 29.1	基準量より少なめ 15.2	わからない 44.2
洗剤の計量	専用のカップ又はスプーンで 11.5	適当に(カップなどで) 57.0		しない 31.5
使用洗剤の種類	合成洗剤 85.5			紛石けん 複合石けん 14.5
	合成洗剤一般 36.9	有りん合成洗剤 22.0	無りん合成洗剤 41.1	
合成洗剤を使う理由	落ちが良い 3.5			もらいものとしてある 12.8
	5.7	水に溶けやすく使いやすい 34.0	近所で入手しやすい・スーパーの特備品になる 44.0	
石けん・複合石けんを使う理由	人間や他の生物にとって安全だと思うから 70.8			環境をよごさないから 5.0
				牛協の会員で配達してもらえるから 24.2
合成洗剤の環境汚染	不安 30.9			その他 3.9
	有害 25.2		わからない 40.0	

図2 主婦の洗濯行動と意識(2)

者が44.2%と多く、ついで「基準量より多めに使う」が29.1%で、以下「基準量より少なめ」15.2%、「基準量と同量」11.5%と続く。洗剤の計量についても、「適当に」57.0%と多く、「計量しない」は31.5%、「専用のカップまたはスプーンで」11.5%と低い。先の花王生活科学研究所の調査⁶⁾において、「計量している」78%、「箱から直接入れる」は21%で、大多数

の者がきちんと計量して使っていることがわかる。今回の調査では、基準量について無視している者が多く、従って計量もしない者が3割もいることは問題がある。コンパクトタイプの新しい洗剤には専用のスプーンがついているので計量は是非してほしいし、専用のスプーンやカップのない従来の洗剤では適当な容器(紙カップやプラスチックカップ等)で計量できるよ

う指導しなければならないと考える。

使用している洗剤の種類では、「合成洗剤」が圧倒的に高く 85.5%、「粉石けん・複合石けん」は 14.5%と低い。

「合成洗剤」を使用している者の内訳では、「合成洗剤なら何でも良い」が 36.9%、「無りん合成洗剤」は 41.1%、「有りん合成洗剤」は 22.0%であった。先の花王生活科学研究所の調査⁷⁾においても無りん合成洗剤が最もよく使われており、メーカーの方も有りん洗剤が環境汚染（富栄養化）の原因とみなされた後、無りん洗剤に力を注いでいて商品の種類が多いことも原因の一つと考えられる。

合成洗剤を使用している人へ「使用の理由」について質問したところ、「入手しやすい・スーパーの特売品になる」が 44.0%と多く、次いで「水に溶けやすく使いやすい」の 34.0%で、「汚れ落ちが良い」という洗浄力は使用理由として低いことがわかった。石けん・複合石けんを使う理由では「人間や他の生物にとって安全だと思うから」が 70.8%と圧倒的に支持され、以下「生協で配達してもらえる」24.2%、「環境をよごさないから」5.0%の順であった。

合成洗剤による環境汚染については、「不安がある」は 30.9%、「有害である」25.2%、「わからない」40.0%であった。

合成洗剤にしろ石けんにしる適量の使用はよいが使いすぎが環境汚染につながることをよく知らないようである。

以上、洗剤関係の項目についての結果をまとめると、洗剤の使い方基準量を守って使っている者は少なく、従って計量もいい加減であったり、計量せずに箱から直接ふり入れている者もいて、こうした場合時には入れ過ぎることにもなり、不経済であると共に環境汚染にもつながると考えられる。

使用する洗剤についても「入手しやすい」や「水に溶けやすい」等の安易な理由から合成洗剤を多数使用していることも問題である。

確かに、粉石けんは水に容易にとけず、従って湯（ぬるま湯）を使わなければならないという不便さはある。最近、日本消費者連盟から「上手な石けんによる洗濯」というパンフレッ

トも出ているので、今後学校教育の中にとり入れる必要があると思われる。

合成洗剤による環境汚染には、半数の者が不安をいだいたり有害意識をもっていることも明らかになった。

洗濯機や乾燥機、将来の洗濯等の項目に対する結果については図 3 に示した。

対象者の全員が電気洗濯機を所有しているので普及率は 100%ということになる。

洗濯機のタイプでは、「全自動・半自動式」が 59.4%と半数を越え、「二槽式」の 40.6%を上回っていることも明らかになった。

先の商品科学研究所の調査⁸⁾においては、「二槽式」が約 7 割、「全自動式」が約 3 割となっていて、今回の調査の方が「全自動式」の使用率は 2 倍高いことがわかる。

筆者が「被服整理学」の中で調べた学生の家庭においても全自動式の使用率は高かったので全自動式（半自動式も含む）を使用する理由について質問をもうけた。

その結果、「同時に他の仕事をしたいから」55.1%で最も高く、ついで「二槽式はめんどうだから」が 23.4%、「子供に手がかかるため」14.3%であって、少数意見として「手がある・体が弱いから」もあった。

自動式洗濯機使用によるういた時間の活用を複数回答で答えてもらった所、「家事」が圧倒的に多く 73.5%、ついで「育児」の 12.2%、以下「教養」「娯楽」ともに 6.1%、「入浴」3.1%となった。商品科学研究所の調査においても、洗濯は他の家事をしながらという人がほとんどで、その中で 7~8 割の人は「台所仕事や掃除と並行して」と答え、「子供の世話をしながら」や「読書・テレビを見ながら」「食事をしながら」という者もいた。

以上のことから全自動式を使いながら他の家事や育児などを行っている姿が浮かびあがる。

では二槽式を使用している人に使う理由をたずねると、「水・洗剤ともに経済的である」が第 1 位で、「少ない量のものでも洗濯できる」、「風呂ののこり湯の利用」などがあげられた。また二槽式洗濯機使用の場合、他の仕事が同時にできるかをたずねた所、ほとんどの者が「手

藤原：洗濯に対する主婦の意識と行動

洗い」をしている、「食器洗い」、「風呂場の掃除」もみられた。これらのことから、二槽式の使用では並行してできる仕事に制限はあるものの、全くないとは言えないことも明らかになった。

使用洗濯機のタイプ	全自動（半自動を含む）式 59.4		二槽式 40.6	
全自動式を使う理由	同時に他の仕事をしたいから 55.1	子供に手がかかる 14.3	二槽式はめんどうだから 23.4	手があれる・体が弱い 3.1 その他 14.1
全自動式使用による時間の活用（複数回数）	家事 73.5		入浴 3.1	育児 12.1
			教養 6.1	娯楽 6.1
洗濯機の買い替え全自動式を使用している人	現在と同じ全自動式 98.0			二槽式 2.0
二槽式を使用している人	現在と同じ二槽式 92.5			自動式 7.5
電気乾燥機利用率	使用している 16.4	使用していない 83.6		
使　　い　　方	毎日使用 25.9	時々使用 74.1		
問　　題　　点	光熱費が高い 58.6	布の損傷 25.0	時間がかかる 12.4	騒音 4.0
将　来　の　洗　濯	二槽式洗濯に自然乾燥 11.6	全自動式洗濯に自然乾燥 40.6	洗濯・乾燥共に自動 35.7	クリーニング業者 12.1

図3 主婦の洗濯行動と意識(3)

全自動洗濯機械使用率が高い原因については後のクロス集計のところで他の項目との関係で詳しく考察したいと思う。

「将来洗濯機を買い替えるとしたらどのタイプにしますか」の質問に対し、現在自動式を使用している人の98%は現在と同じ自動式を望んでおり、二槽式を利用している人の92.5%が二槽式を望んでいた。また、二槽式利用者の7.5%に自動式に替えたいとする者がおり、その理由については、「年をとったので二槽式による洗濯はつらい」や「夫にしてもらおうので苦勞させたくない」等をあげていた。

電気乾燥機の使用では、「使っていない」が圧倒的に多く83.6%で、「使っている」は16.4%と少なかった。全国規模の調査での乾燥機の所有率は10%程度なので、今回の調査は平均をわずかに上回っている。

乾燥機の使い方では、「毎日使用する」は25.9%と低く、「時々、必要に応じて使用」が74.1%と高い。時々使用の内容をみると、梅雨時や、雨天の日に使用したり、洗濯物をとり込むのが遅いので湿りをとる程度などがみられた。

乾燥機の問題点として、「光熱費が高い」は58.6%で、「布の損傷」25.0%、「時間がかかる」12.4%、「騒音」4.0%等があげられた。

以上洗濯機・乾燥機の項目の結果をまとめると、現在使用している洗濯機では全自動式が二槽式を上回わり半数を越えていることがわかった。これは主都圏の調査の2倍にあたる高い普及率である。全自動式を使う理由は同時に他の仕事ができるからで、家事や育児が並行して行われていることもわかる。

二槽式を使う理由については、水や電気、水道などの経済性をあげ、同時にできる仕事には制限があるものの、「手洗い」や「食器洗い」「風呂場掃除」などと並行してできることも明らかになった。洗濯機の買い替えでは、現在使用しているタイプと同じタイプをあげる者が多いが、二槽式使用者の7%に全自動式にかえた者もいることがわかった。電気乾燥機では現在の使用率は16.4%と低く、光熱費の高いのを気にしながら、雨天の日、梅雨時、必要に応じて自然乾燥の補助的に使用している実態も浮

び上った。

最後に「将来、洗濯はどうあるべきでしょうか」の質問に対して、「現在のような二槽式洗濯機を用いた洗濯と自然乾燥（天日による）」が10.4%、「洗濯は全自動式で行ない、乾燥は自然乾燥」が41.0%、「洗濯から乾燥まで機械がやる」36.1%、「洗濯は洗いから乾燥プレスまでクリーニング業者に任せる」12.5%となった。これらのことから、洗濯は自動が最も多くついで洗濯・乾燥とも自動でも多くなっていることから、将来ますます全自動式は増加するであろうと考えられる。

(3) クロス集計の結果

就労形態別洗濯時間帯については表5に示した。

表5 就労形態別洗濯時間帯

	常 勤		パート・自営		専 業	
	人	%	人	%	人	%
午 前	14	21.2	19	67.9	46	86.7
午 後	1	1.5	5	17.9	3	5.7
夕 方 ~ 夜	45	68.2	2	7.1	2	3.8
決っていない	6	9.1	2	7.1	2	3.8

これによると「午前中」に洗濯をしているのは専業（家事）主婦が最も多く86.7%、ついでパート・自営の67.9%であった。逆に「夕方から夜」に洗濯をする者は常勤の主婦に多く68.2%であった。

花王が行なった調査⁹⁾では、専業主婦の95%は朝洗濯をしており、常勤の職業主婦は朝が61%、夜20%であることから、那覇市の常勤の主婦は「夜間洗濯タイプ」と言える。

早起きは苦手のように、夜、家事をしながら洗濯をしている様子が浮んでくる。

「手洗い」の実施について年代との関連で見たのが表6である。

表6 年代別「手洗い」実施状況

年代	20	30	40	50	60	70
「手洗い」しているものもある	38.1%	74.5%	75.0%	82.1%	83.3%	60.0%
「手洗い」は一切していない	61.9%	25.5%	25.0%	17.9%	16.7%	40.0%

「手洗い」は60代および50代の主婦でよくさ
れていて、60代までは年代の上昇と共に実施率
も高い。手洗いを全くしていないのは20代の主
婦に多く、若い人の手ぬき現象がみられた。

毛糸編物類の洗濯については表7に示した。

表7 年代別毛糸編物類の洗濯状況

年代	20	30	40	50	60	70
ほとんど家で	5.3 %	6.4 %	13.9 %	22.2 %	33.3 %	26.7 %
業者と家で	36.8 %	38.3 %	41.7 %	42.8 %	50.0 %	40.0 %
ほとんど業者	47.4 %	36.2 %	36.1 %	37.0 %	16.7 %	33.3 %
その他	10.5 %	19.1 %	8.3 %	0 %	0 %	0 %

全体として、20代をのぞくどの年代でも「業者
と家」の割合が高い。

20代では「ほとんど業者にまかせる」が47.4
%と高い反面、「ほとんど家で」は最も低い。
このことからここでも20代主婦の「手洗い嫌い」
が目立つ。30代から60代までは、年代の上昇と
共に「家で洗う」割合は高くなり、逆に「業者に
に任せる」割合は低下している。

洗濯機関連の結果は表8～10に示した。

表8 就労形態別使用洗濯機のタイプ

	全自動式		二槽式	
	人数(人)	割合(%)	人数(人)	割合(%)
常勤(66)	49	74.2	17	25.8
パート(28)	17	60.7	11	39.3
自営(18)	8	44.4	10	55.6
専業(53)	24	45.3	29	54.7
合計	98	59.4	67	40.6

就労形態別使用洗濯機については表8に示した
が、常勤の有職主婦では全自動式74.2%、二槽
式25.8%で、全自動の使用は二槽式の約3倍と
高い割合を占めている。パートの主婦も全自動

式使用の割合が二槽式よりはるかに高い。自営、
専業の主婦では二槽式の方がわずかに高いこと
もわかった。

これらのことから常勤やパートなど外で働く
主婦にとって、洗濯は自動化したい家事のよう
である。

次に年代別使用洗濯機のタイプを表9に示し
た。

表9 年代別使用洗濯機のタイプ

()内は半自動式

年代	全自動式		二槽式	
	人数(人)	百分率(%)	人数(人)	百分率(%)
20代	12 (1)	57.1	9	42.9
30代	32 (4)	68.1	15	31.9
40代	27 (6)	75.0	9	25.0
50代	17 (0)	60.7	11	39.3
60代	6 (1)	33.3	12	66.7
70代	4 (0)	26.7	11	73.3
合計	98 (12)	59.4	67	40.6

これによると二槽式は60代70代の高年令層に高
い割合で使用されており、全自動式は40代、30
代、50代、20代の順に低く、子育て期の30代、
40代に高率で使用されている。「全自動式洗濯
機を使う理由の年代別内訳」は表10に示した。

この表から、全体としては「他の仕事も同時
にしたいから」はどの年代でも多いことが明らか
になった。また、20代、30代、40代では「子
供」を理由に上げている。これは、子供に手が
かかるや子供が多いため洗濯の量が多い、時間
がかかる等の理由であった。

「二槽式はめんどうだから」の理由は20代と
30代の若い主婦にあり、ここでも若い年代の手
ぬき現象がみられた。

「その他」の理由として若い年代では「手が
あれる」をあげ、50代では「体が弱い」と「仕
事をもっている上、寝たきり老人をかかえてい
る」、70代では「年をとると二槽式での洗濯は
疲れる」をあげていた。

表10 年代別全自動式洗濯機を使う理由

理由	20 代		30 代		40 代		50 代		60 代		70 代	
	人数	割合	人	%	人	%	人	%	人	%	人	%
子 供	4	33.3	7	21.9	2	7.4	0		0		0	
他の仕事	3	25.0	16	50.0	22	81.5	12	70.6	5	83.3	3	75.0
めんどう	5	41.7	1	3.1	0		0		0		0	
便 利	0		9	28.1	3	11.1	3	17.6	1	16.7	0	
そ の 他	1	8.3	1	3.1	0		2	11.8	0		1	25.0

電気乾燥機については表11~13に示した。

表11 年代別乾燥機と自動式洗濯機使用者の関係

	乾燥機の 使用者(人)	自動式洗濯機/ 乾燥機使用者(人)
20 代	4	3
30 代	11	9
40 代	7	6
50 代	5	5
計	27	23
割合(%)	(100)	(85.2)

表11は年代別電気乾燥機と全自動洗濯機の関係である。今回の調査対象 165人のうち乾燥機を所有し、使用しているのは27人(16.4%)であるが、そのうちの23人つまり85.2%が全自動式洗濯機の利用者であった。洗濯を自動化して家事の合理化を目指す人は乾燥も自動化したいということの表れであろうか。

表12は年代別電気乾燥機の使用状況である。

表12 年代別電気乾燥機の使用状況

	()内は毎日使用	
	人 数(人)	割 合(%)
20 代	4 (1)	19.0
30 代	11 (1)	23.4
40 代	7 (4)	19.4
50 代	5 (1)	17.9
60 代	0	0
70 代	0	0
合 計	27 (7)	16.4

この表はよると、30代の使用が他の年代より高く、20代と40代はほぼ同率、次に50代と続く。60代、70代には使用者はみられなかった。

次に、就労形態別乾燥機使用状況は表13に示した。

表13 就労形態別電気乾燥機使用状況

就労形態	人 数 (人)	割 合 (%)
常 勤	16	59.3
パ ー ト	3	11.1
自 営	2	7.4
専 業	6	22.2
合 計	27	100.0

これによると、「常勤」の主婦が59.3%と最も高く、ついで「専業」の22.2%、パート11.1%、自営7.4%と続く。

これらのことから乾燥機を使うのは子育て中の常勤で働く主婦で、しかも全自動式洗濯機を使っている者であることが明らかになった。

「将来の洗濯はどうあるべきか」を年代別に表わしたのが表14である。

これによると、現在日本の多数派を占める、「二槽式洗濯に自然(天日)乾燥」をあげたのは、60代に多く、次いで70代、50代と続く。

「自動洗濯に自然乾燥」をあげたのは、70代と50代に多く、40代、30代と低くなっている。「洗濯・乾燥とも機械で自動化したい」は40代に多く、ついで30代、20代の順であった。

「洗濯の全てをクリーニング業者に任せる」は

20代の主婦に多く、30代にもわずかにみられた。これらことから、若い世代程、洗濯からのが
 いたいと思っているようで、前に述べた若い世代の手ぬき現象とも関連しているようである。

表14 年代別将来の洗濯

	二槽式洗濯 自然乾燥に	自動洗濯に 自然乾燥	洗濯・乾燥 とも自動	クリーニング業 者に全部任せる
20代 (21人)			6 (28.6)	15 (71.4)
30代 (47人)		19 (40.4)	23 (48.9)	5 (10.7)
40代 (36人)		17 (47.2)	19 (52.8)	
50代 (28人)	3 (10.7)	18 (64.3)	7 (25.0)	
60代 (18人)	13 (72.2)	3 (16.7)	2 (11.1)	
70代 (15人)	3 (20.0)	10 (66.7)	2 (13.3)	
165 (100人)	19 (11.6%)	67 (40.6%)	59 (35.7%)	20 (12.1%)

以上クロス集計による結果をまとめると、自動式の洗濯機を使っているのは30代や40代の子育て中の主婦で、常勤やパートなど外で働く主婦に多いことがわかった。

自動式を使う理由として、並行して家事などの仕事をしたいということや、子供の面倒をみたい等があげられた。「手洗い」については70代をのぞくどの年代でもよく行われているが、毛糸編物類の洗濯と同様に、20代の若い世代に「手ぬき」の現象がみられた。

電気乾燥機は、洗濯を自動化している者で、常勤で働く30代や40代的主婦によく使われていることがわかった。仕事と家事、その上子育てまでしなければならぬ主婦にとって必要な商品であるように思われる。

4 要約

現代の家庭における洗濯行動や意識について那覇市に住む主婦を対象に調査を行ない、若干の示唆を得た。

① 洗濯は時代が進歩しても相変わらず主婦の仕事で、毎日のように1時間から1.5時間かけ

てしている家事の一つである。

② 洗濯の時間帯は昔から朝が相場であったが、常勤で働く主婦に夜型がみられた。

③ 洗剤では、入手しやすいや水に溶けやすい等の理由で、合成洗剤がよく使われており、中でも無りん洗剤が多かった。洗剤の基準量はあまり守られず、また計量もしていないという状況がみられた。

④ 洗濯機では約6割の主婦が自動式を使用しており、家事と並行して行われている。自動式をよく使っているのは、30代、40代の子育て中の常勤・パートなど外で働く主婦であった。

⑤ 電気乾燥機は現在のところ全体の16.4%の普及で、まだ多くの人には使用されていない。比較的使用率が高いのは、洗濯を自動化している、30代、40代の子育て期にいる常勤やパートの外で働く主婦であった。

⑥ 「将来の洗濯はどうあるべきか」の質問では、二槽式洗濯や自動洗濯に自然乾燥などの現状支持派は60代、70代、50代に多く、逆に20代、30代の若い世代では業者に任せたいという現状否定の状況があり、洗濯の外部化、社会化を望んでいるようである。

文 献

- 1) 石英輔, 鈴木益太郎, 相沢稔子, 近藤那成
: 繊維製品消費科学会誌, 12, 127 (1971)
- 2) 花崎正子, 原田悠三, 昭和60年度日本家政
学会九州支部総会研究発表要旨集 p37 (1985)
- 3) 朝日新聞, 子供の人口20%割る 5月5日
(1988)
- 4) 日本人の生活時間, 主婦の家事時間
日本放送出版協会 (1985)
- 5) 住まいの中の洗濯の場—実態と改善への提
案, 洗濯の科学VOL33, No.1 (1988)
- 6) ますます便利になる洗濯機, 洗濯はこんな

ふうにされています, 清流No.143 8~9, 花
王生活科学研究所 (1986)

- 7) 前掲6)
- 8) 前掲5)
- 9) 前掲6)

その他

杉原黎子「大学生の洗濯の実態と洗剤への関心
についての—考察」岡山大学教育学部研究集録57
(1981)

土井千鶴子「洗濯に対する親子の意識・行動の
違い」家政学研究VOL34, No.1 (1987)